

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

滋賀県大津市立仰木の里東小学校

校長 橋詰 幸喜

1. 単元名 「生き物にヨシ 琵琶湖にヨシ 人にヨシ 未来にヨシ ～ヨシで守る琵琶湖～」

2. 単元の目標

- 琵琶湖を守るためにヨシを保全する活動をしている人たちの思いを理解することができる。
(知識・技能)
- ヨシの良さを見つけ、伝えられるようにする。
(思考・判断・表現力等)
- 積極的にヨシを育て、ヨシを保全しようとする態度を養う。
(学びに向かう力・人間性等)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、琵琶湖と湖岸に生えるヨシをテーマとして取り上げ、実際に琵琶湖でカヌーに乗りながらヨシを観察したり、自分たちでヨシを育てたりする直接的な体験（活動）をとおして、ヨシを保全しようとする態度を養うことを目標とする。

滋賀県では、5年生になると全ての児童が「湖の子」という学習船に乗り、琵琶湖環境学習を行う（びわ湖フローティングスクール）。航海をとおして琵琶湖の大きさを実感したり、船の中から自分の住んでいる街を眺めたりしながら、今の琵琶湖の現状を知るとともに、その魅力を感じ取っていく。この学習は、滋賀県の児童にとっては、唯一無二の環境学習であるといえるが、「毎年航海の時期が変わる（公平性を保つため、毎年実施時期が変わる）」という難しさがある。そのため、本単元を1学期に位置づけ、毎年同様の学習ができるように計画したい。

ヨシ群落は、滋賀県（湖国）の原風景であり、魚類・鳥類にとって大切な生息場所であるだけでなく、湖岸の侵食防止、水質保全等多様な機能を有している。そんなヨシを積極的に育て、そのよさを多くの人に伝え、保全していこうとする態度を育てていきたい。

(2) 児童観

本学区は、新興住宅が主体であり、市外から引っ越してこられた家庭も多い。校区が琵琶湖に接しているわけではないが、琵琶湖まで歩いて数分の距離であり、校舎からも琵琶湖を直接眺めることができる。多くの児童は、琵琶湖で遊んだ経験を持ち、琵琶湖やその周辺に広がる豊かな自然環境に良い印象を持っている児童は多いことだろう。

しかし、琵琶湖が身近に感じられる地域行事に参加したり、祖父母等から昔の琵琶湖についての話を聞いたりする機会がほとんどない児童が多い。湖水浴や釣り、バーベキューや「ピワイチ（自転車での琵琶湖一周等）」など、レジャーの対象として琵琶湖の魅力を感じていたとしても、琵琶湖が有する課題については、自分事として考えている児童は少ないと考えられる。

(3) 指導観

前述した本学区や本校児童の現状から、自分たちが育った街や環境に誇りを持ち、琵琶湖やその周りに広がる豊かな自然に愛着を持つことができるようにしていくことは大変重要であると考えます。「琵琶湖まで歩いて行く」「琵琶湖でカヌーに乗る」「手で触れたり、香りをかいだりしながら、湖岸に生えるヨシを観察する」「自分たちでヨシを育てる」「育てたヨシを湖岸に移植する」等、直接的な体験を重ねることで、自分たちの住んでいる街や琵琶湖、そしてその周辺に広がる豊かな自然環境に愛着を持てるようになってほしい。

学校から徒歩圏内にある環境教育施設（オーパル）でのカヌー体験を終えた後、淡海環境保全財団の方々に、「ヨシの性質」「ヨシの管理」「ヨシの育て方」等についてご指導いただき、スクール農園（池の部分）を活用して自分たちでヨシを育てさせたい。継続的にヨシが成長していく様子を観察することで、ヨシに愛着を持つようになっていくと考えます。育てたヨシは自分たちで移植できるように計画したい。隣接する小学校区の湖岸で、ヨシを保全しておられる方々（ヨシ保全実行委員会）がおられる。直接お話を伺い、どのような思いで保全活動を続け、未来へ繋いでいこうと考えておられるかを知ることにより、自分たちがどのような行動を取るべきかを考えさせ、主体的に保全活動に関わっていこうとする態度を身につけさせていきたい。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- ・ **相互性**：現在のヨシ（琵琶湖）の様子を知り、自らヨシの保全に取り組むことは、未来のヨシ（琵琶湖）の様子を考えることである。自分や身近な人が年老いた時に、今のままの状態を維持していくためには、自分にどのようなことができるかを考えることができるようにすること。
- ・ **連携性**：ヨシを保全し、琵琶湖を守っていくためには、自分たちだけでなく、地域（滋賀県）に住む住民全てが気をつけることが大切であること。様々な人と協力してヨシの保全に取り組むことが大切であること。
- ・ **責任性**：自分たちの行動が琵琶湖の保全にどのように繋がるのかを考えさせ、みんなでヨシを保全し、きれいな琵琶湖を守るという意識をもつこと。

○本学習で育てたいESDの資質・能力

【多面的・総合的に考える力】

ヨシの保全が、琵琶湖（自然環境）を守ることに繋がりと、ひいては、自分たちの暮らしをも守っていくことに繋がる（自分たちに戻ってくる）ということを実感する。

【つながりを尊重する態度】

オーパルの所員さん、淡海環境保全財団の方々、ヨシを保全する方々などとの関わりをとおり、様々な人とのつながりが豊かな学びになっているということを実感し、尊重しようとする。

【進んで参加する態度】

琵琶湖のヨシを保全するために自分にできることはないかと考え、積極的にヨシを育て、移植する。

【未来像を予測する力】

自分たちでヨシを育てたり、ヨシを保全する方々の話を聞いたりする中で未来について考える。

○本学習で変容を促すESDの価値観

【自然環境・生態系の保全を重視する】

自然環境を維持する（ヨシを保全する）ことで生態系が守られていることを理解し、行動する。

【世代間の公正】

自分の世代だけでなく、未来へつないでいこうと考え、ヨシを積極的に保全する。

○達成が期待されるSDGs

- 1 1 住み続けられるまちづくりを
- 1 4 海（湖）の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
① ヨシの多面的な機能について理解している。 ② 学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらに関連づけながらまとめる技能を身につけている。	① 淡海環境保全財団の方から直接話を聞いたり、実際に自分でヨシを育てたりする中で、ヨシを保全することの大切さについて考えることができる。 ② 学んだことから、自分たちにできることを考えることができる。 ③ 学んだことや考えたことをノートやポスター、動画等にまとめ、他者に伝えるように表現することができる。	① ヨシを保全し、琵琶湖を守りたいという目的意識を持ち、意欲的に活動しようとしている。 ② ヨシの多面的な機能を調べたり、ヨシを育てたりしながら、自分にできることを模索しようとしている。 ③ ヨシを保全することが琵琶湖を守ることにつながることを地域の人や他の学校の児童に発信（フローティングスクールでの交流時）しようとしている。

5. 単元の指導計画（全24時間）

次	主な学習活動	学習への支援	評価・備考
1	○葦簣との出会い（1） ・葦簣と出会い、ヨシについて知っていることを出し合う。 ・プラスチック製のものと比較する。	・フィールドワークに繋がるように、児童の意見を掘り下げる。 ・本物の葦簣を用意し、実際に触ったりにおいをかいたりさせる。また、プラスチック製のものを用意しておき比較させる。 ・一人ひとりに、「どちらの葦簣を使いたいか」選択させ、その理由について考えを出し合わせる。	ア ① ウ ②

2	<p>○オーパル（環境教育施設）で、カヌーに乗ってヨシを見に行こう（6）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実物のヨシを湖岸で観察する。 ・カヌーに乗って、琵琶湖の上からヨシを観察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシが水の中にしっかりと根を張っていることを観察した後、五感を活用してヨシの強さやしなやかさを体感させる。 ・琵琶湖の上からヨシを観察することにより、景色としてすばらしいだけでなく、生き物にとっても過ごしやすい場所であることに気づくようにさせる。 	<p>ア ① ウ ①②</p>
3	<p>○淡海環境保全財団の人にヨシのことを教えてもらおう（4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシの機能について学ぶ ・ヨシの育て方を学ぶ ・実際にヨシをポットに移植する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシが琵琶湖を守っていることを理解できるようにする。 ・ヨシが生き物にとっても大切であることを理解させる。 ・ヨシの育て方を理解できるようにする。 	<p>ア ① イ ①② ウ ①②</p>
4	<p>○ヨシを保全している方々から「ヨシの保全について」話を聞こう（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の近く（隣の小学校区）の湖岸で、保全活動をしておられる方々から話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「どうしてヨシを保全しておられるのか」ということについて、実際に保全しておられる方々から直接話を聞くことで、自分事として捉えられるようにする。 ・「自分たちにもできることはないか」考えられるようにする。 	<p>ア ① イ ①② ウ ①②</p>
5	<p>○オーパルにヨシを植えに行こう（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで育てたヨシの苗を、自分たちで琵琶湖に移植する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで育てたヨシを植えることで、ヨシや琵琶湖に対する愛着を高めるようにさせる。 	<p>ウ ①</p>
6	<p>○ヨシを使って環境保全につなげよう（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニ葦簣を作る ・よしペンを作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシを使うことがヨシを保全することに繋がることを理解できるように、ヨシを使った工作をさせる。 	<p>ウ ①</p>
7	<p>○ヨシの大切さや素晴らしさを多くの人に伝えよう。（計画・実行 4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の人向けに発表会（ポスターセッション）を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでできることを考え、ヨシの大切さや素晴らしさを多くの人に伝える方法を考えさせる。 	<p>ア ② イ ③ ウ ①② ③</p>
8	<p>○単元のふり返りをしよう（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシを使った葦簣とプラスチック製のものを再度提示し、どちらのヨシを使いたいかについて、再度考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にヨシを観察したり、育てたり、移植したりすることをふり返り、自分事として琵琶湖の保全や自分たちにできる「社会貢献」について考えられるようにする。 	<p>イ ② ウ ①</p>